

JAPANESE "TILE": A Century of Beauty and Utility

本展は、INAXライブミュージアム、江戸東京たてもの園と多治見市モザイクタイルミュージアムの3館共同企画として巡回する展覧会であり、日本で「タイル」と呼ばれるようになったやきものの、現在に至る100年間のあゆみを辿り、未来へ向けた第一歩にしようとする巡回企画展です。

建物の表面を覆う薄板状のやきものを統一的に「タイル」と呼ぶ——1922年4月12日、全国のタイル業界関係者が東京に集まり、決議した記録が残されています。それまで「やきものの建築装飾」が25種類を超えるという様々な名称で呼ばれていた背景には、建築物をやきもので覆うという行為が、世界各地の文化を反映しながら波及し、地域性を備えた様々な形態で日本に伝わってきた実態があります。そして日本側でも、こうしたやきものを独自の解釈を加えながら取り入れ、日本の「タイル」の姿を作り出してきたと言えるでしょう。「名称の統一」は、単に呼び名を絞ったという話ではなく、日本の「タイル」の輪郭が定まり、規格化され、産業製品として流通するようになったという変革の時を表しているのです。

変革の背景には、公衆衛生に対する意識の変化がありました。しかしタイルの変遷には、実用面や機能面だけでは語れない、日本人のやきもに対する思い入れや、その時々文化、芸術の写し鏡のような側面も見て取れます。本展を通して、美と用の間でタイルが果たしてきた役割を振り返り、タイルを通して見えてくる暮らしや建築の未来を考える機会となれば幸いです。

多治見市内の2つの博物館が初めて手を結んだ共同開催展

第1会場

多治見市モザイクタイルミュージアム 3F

観覧料：一般 310円 他

INAXライブミュージアム蔵

「世界のタイル」コレクション、

極めて希少な上絵付の

腰瓦〈柿右衛門

色絵陶板〉など、

「タイル」の原点を表す

重要資料が並びます。

〈柿右衛門色絵応龍文陶板〉

17世紀、前坂晴天堂蔵



第2会場

多治見市美濃焼ミュージアム ギャラリーM1

観覧料：一般 320円 他

100年にわたる日本のタイルの

歴史を、トピックスごとにご紹介。

泰山製陶所の美術タイルや

東郷青児原画のモザイク画等に

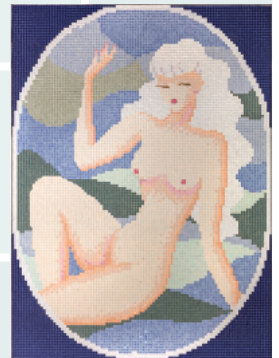
加え、現代の陶芸家による

創作的な「タイル」作品も出品。

〈アートモザイクタイル画「裸婦像」〉

原画：東郷青児 発売：伊奈製陶

昭和26年、INAXライブミュージアム蔵



©Sompo Museum of Art, 2010



関連企画 詳細はホームページへ

◆ナイトミュージアム×コンサート

9月17日[土]18:30 会場：モザイクタイルミュージアム

◆みる×つくる 折り紙建築と特別ツアー

講師：笥 清澄、村瀬良太

9月18日[日] 13:00 会場：名古屋市市政資料館

◆◆2会場を巡るギャラリートークツアー

9月19日、25日、10月と11月にも設定。

◆シンポジウム「タイルと建築」(仮)

出演：笠原一人、倉方俊輔、高岡伸一、後藤泰男

11月23日 14:00

会場：笠原中央公民館 3階

2会場共通券：500円

◆INAXライブミュージアム協力企画「光るどろだんご」

10月29日[土]

会場：多治見市美濃焼ミュージアム

◆美濃焼ミュージアム企画

ワークショップ「器をつくる」(タイルでアクセント)

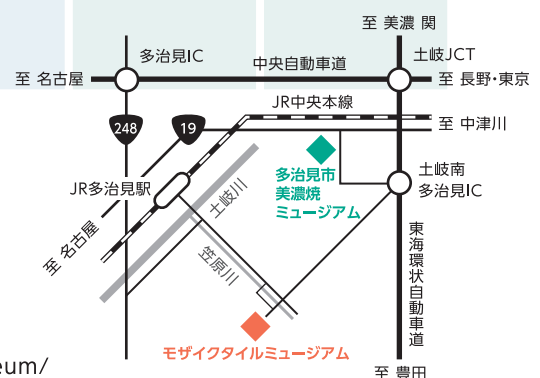
9月24日[土]、11月19日[土]

会場：笠原中央公民館 陶芸工房

【巡回予定】

江戸東京たてもの園 2023年3月11日(土)～8月20日(日)

東京都小金井市桜町3-7-1(都立小金井公園内)



【お問合せ先】

モザイクタイルミュージアム
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

多治見市笠原町2082-5 tel.0572-43-5101

www.mosaic-tile-museum.jp

多治見市美濃焼ミュージアム
TAJIMI CITY MINOYAKI MUSEUM

多治見市東町1-9-27 tel.0572-23-1191

www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/